

平成27年10月8日

平成27年第3回都議会定例会を終えて（談話）

東京都議会自由民主党幹事長 宇田川 聡史

本日、知事提案の全議案を審議し、第三回定例会は終了しました。

本定例会の中で、我が党は、改めて二元代表制における知事と議会との連携協力のあり方について、確認をいたしました。

舛添知事が就任し、一年半が経過しましたが、この数カ月間、新国立競技場整備計画の白紙撤回やエンブレム使用中止に関する知事の発言や行動は、一評論家もしくは市井の一学者の批判に終始し、残念ながら、都知事の発言、行動としては不適切だったといわざるを得ませんでした。

今必要なのは、二元代表制である知事と議会が車の両輪となり、大局的な見地から議論し、政策を着実に実現していくことでもあります。知事には、都議会との丁寧な議論を積み重ね、議会の意思を尊重し、全力で都政に取り組んでいただくことを求めるとともに、我々も知事と一丸となって、ともに汗を流し力を合わせて進んでいく覚悟であります。

次に、地方法人課税の不合理な偏在是正措置の撤廃等についてです。

都市と地方の財源の奪い合いという国の不合理な措置により、都はこれまで1兆3千億円もの都民の税金を失いました。こうした現状維持の発想では、真の地方創生は為し得ないことは明らかであり、都市と地方が共に栄えなければ、日本全体の発展はありえません。

我が党は、本定例会の代表質問で、日本全体の活性化に向け、地域間の結びつきを強化する、東京ならではの取組を着実に実行することの重要性を訴えました。

都自らが、東京都版総合戦略でその姿勢を明確に打ち出し、具体的な取組の実績を積み重ねることにより、お互いの信頼感が高まるはずです。

今後の都の一層の取組を求めるとともに、年末の税制改正に向け、国の不合理な動きに対して、我が党も、不退転の決意で臨んでまいります。

最後に、東京五輪・パラリンピック競技大会等についてです。

我が党はこれまでも、大会開催に向けた着実な準備はもとより、大会後に確かなレガシーを残すことの重要性を訴えてきました。

例えば、ハード面では競技施設の整備やバリアフリー化の推進、ソフト面ではボランティアの拡大や障害者スポーツの振興など、まさに取り組むべき課題は山積しています。

加えて、先般、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開会式、開幕戦の会場に「東京スタジアム」が決定しました。都は、今後、二つの国際大会の成功にむけ、関係機関と十分に連携するとともに、都議会と一体となって、開催準備に取り組むよう要望いたしました。

この二大イベントを成功に導いていくには、関係者が一致協力して、オールジャパンで英知を結集し、準備を着実に前へ進めていかなければなりません。

我が党は、引き続き二元代表制のもと、知事と緊密な意思疎通と情報共有を図り、大会成功に向けて積極的に取り組む決意であります。

以上、都議会自由民主党は、東京を世界で一番の都市にするため、都民の負託にしっかりと応え、今後とも都民本位の政治を全力で推進することをお誓い申し上げます。